

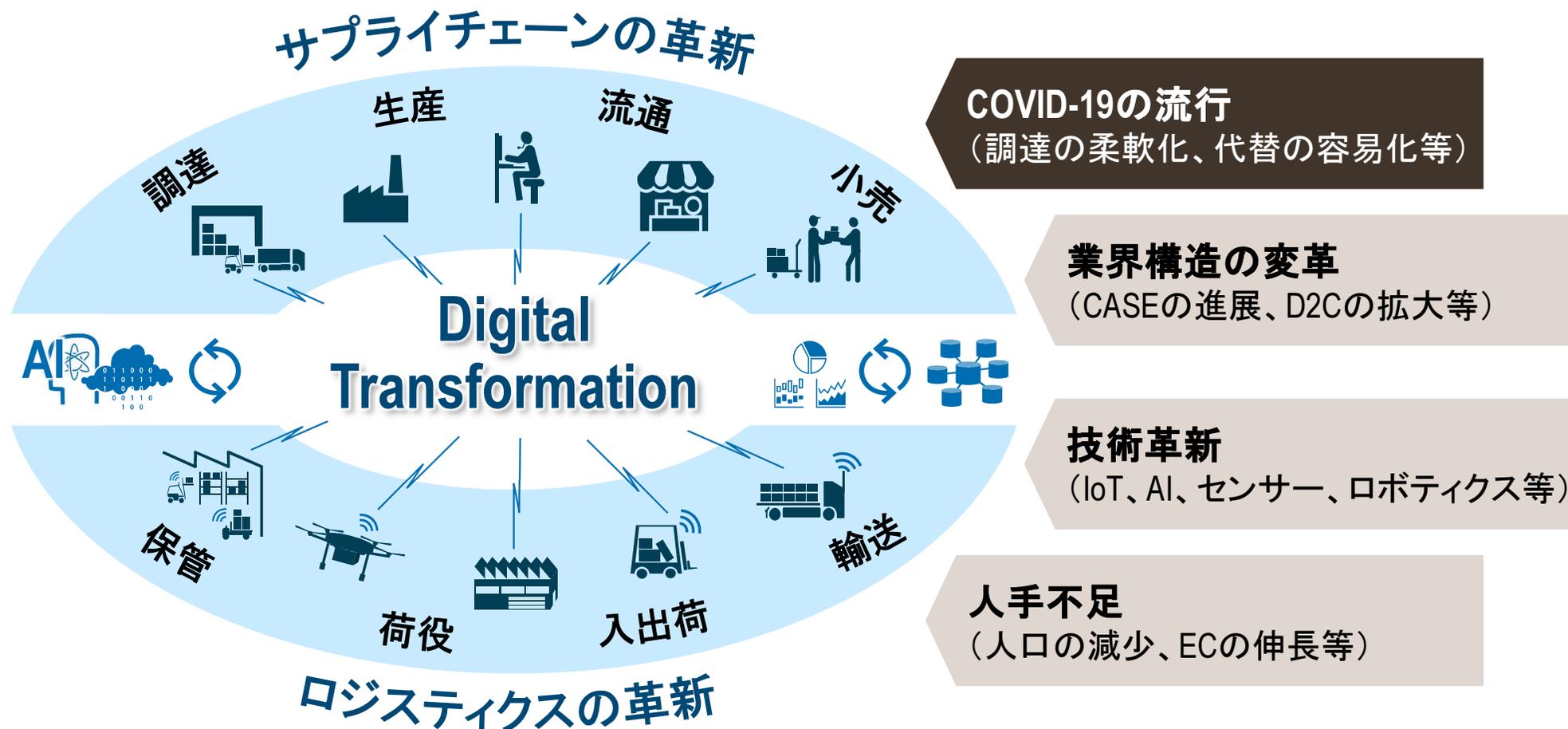
COVID-19の流行による サプライチェーン への進化

株式会社ローランド・ベルガー
パートナー
小野塚 征志



COVID-19の流行はサプライチェーンの革新を促す

物流の革新に向けた事業環境



COVID-19の流行によって、調達先・納品先、輸送手段、流通ルートの硬直性に対する課題が浮き彫りになった

COVID-19の流行によるサプライチェーンへの影響



調達先・納品先

特定の企業の操業が停止することでその調達先・納品先の企業も生産活動を継続することが困難になる

輸送手段

特定の輸送ルート／モードが利用できなくなることで、調達・納品が非効率になる（最悪の場合停止する）

流通ルート

在庫・配車情報が広く共有されないことで、不必要な買付が生じ、流通が非効率になる（社会生活の快適性も損なわれる）

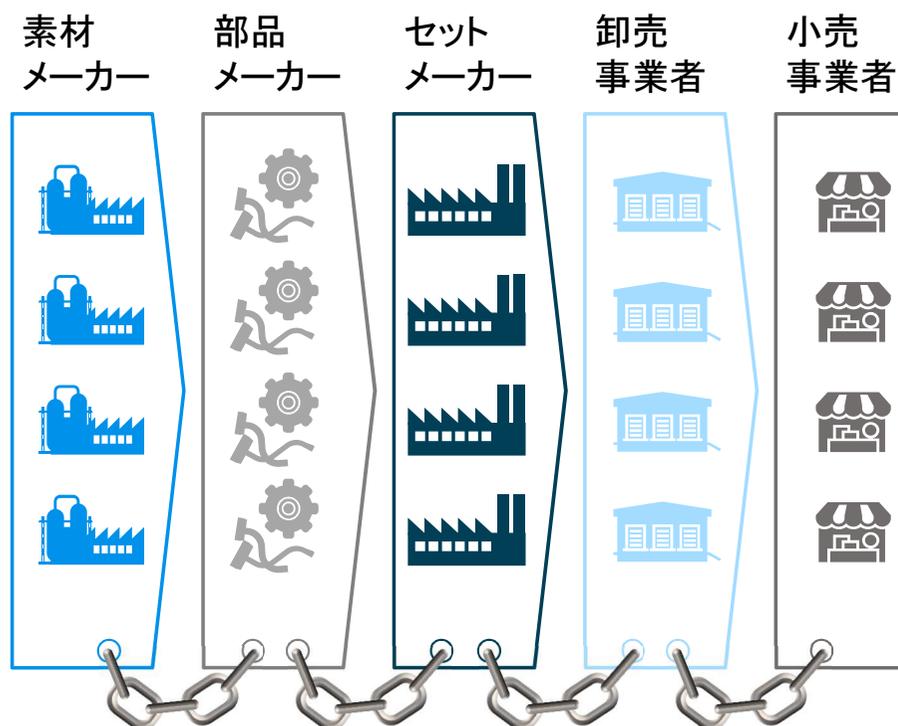
**調達先・納品先、輸送手段、流通ルートを自由に組み替えられる仕組みが必要
（拠点や取引先を集約・分散すればよいという問題ではない）**

従来型の固定的なサプライチェーンは、不特定多数の調達先・納品先との自由な取引を可能とするサプライウェブに進化する

「チェーン=鎖」から「ウェブ=クモの巣」への進化

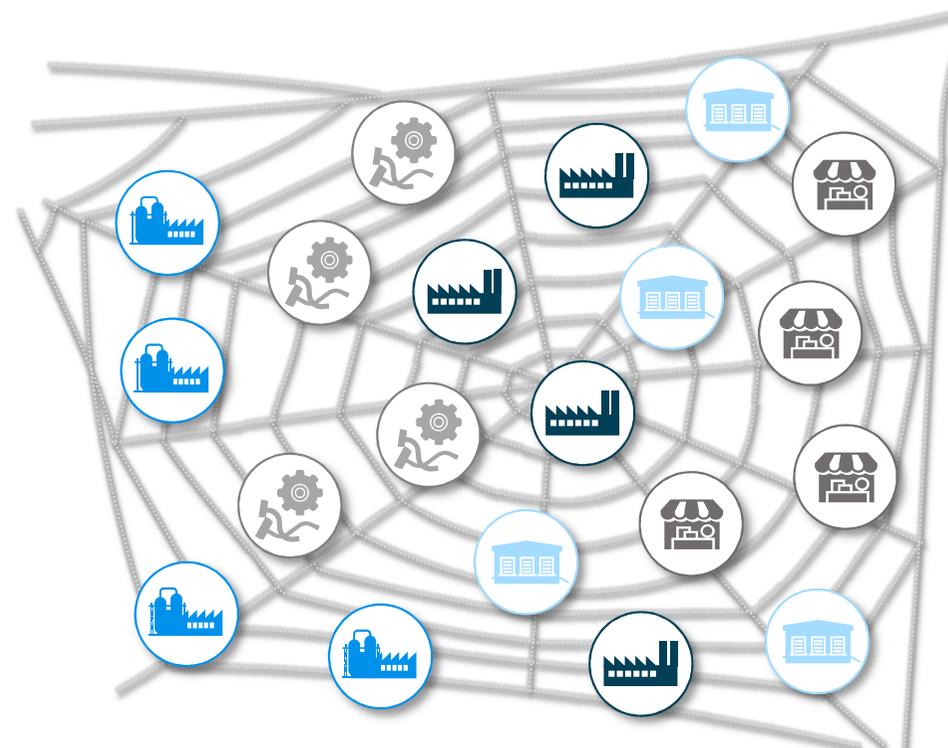
サプライチェーン

特定の調達先・納品先との固定的な関係を基盤とした供給プロセス



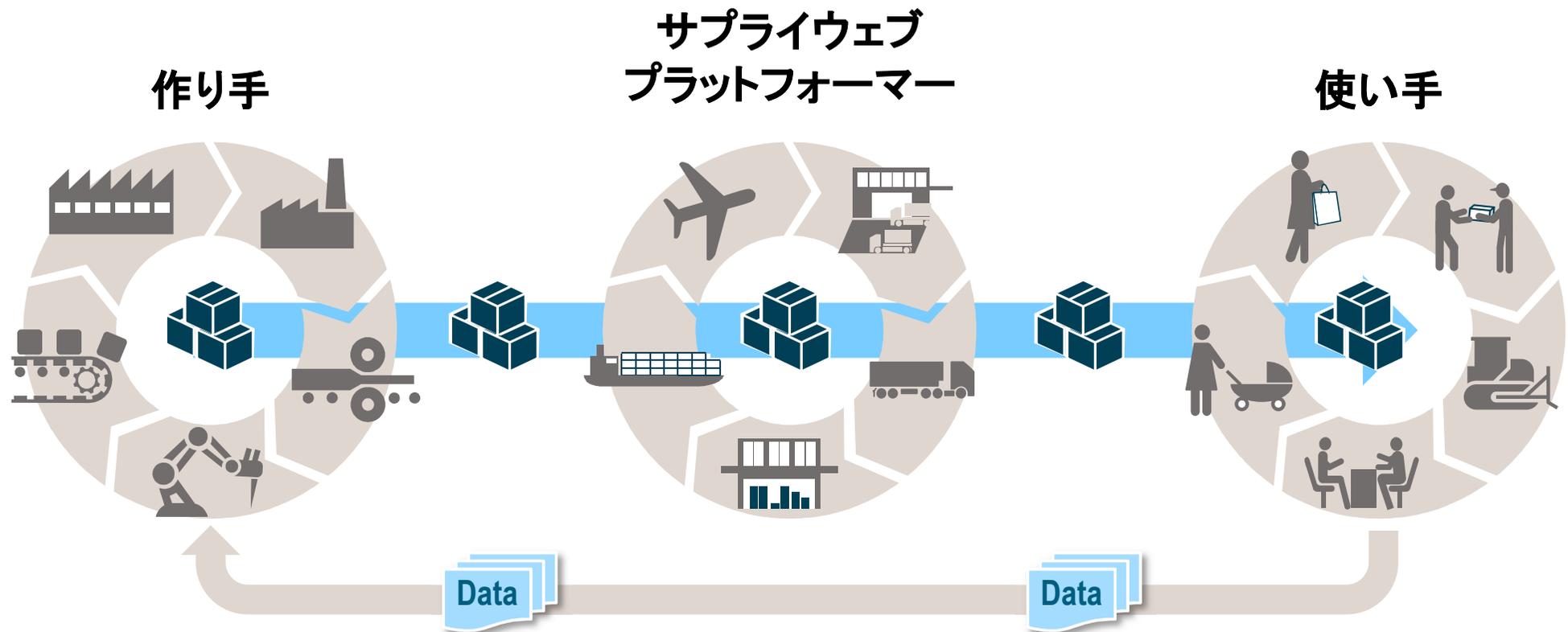
サプライウェブ

不特定多数の調達先・納品先と自由取引することが可能な供給ネットワーク



サプライウェブは、広く多くの企業に利用されるインフラ的存在であり、プラットフォームビジネスとしての展開が十分に想定される

サプライウェブプラットフォームの可能性



Roland
Berger

